

赤城山日記

—河合榮治郎 若き日の日記—

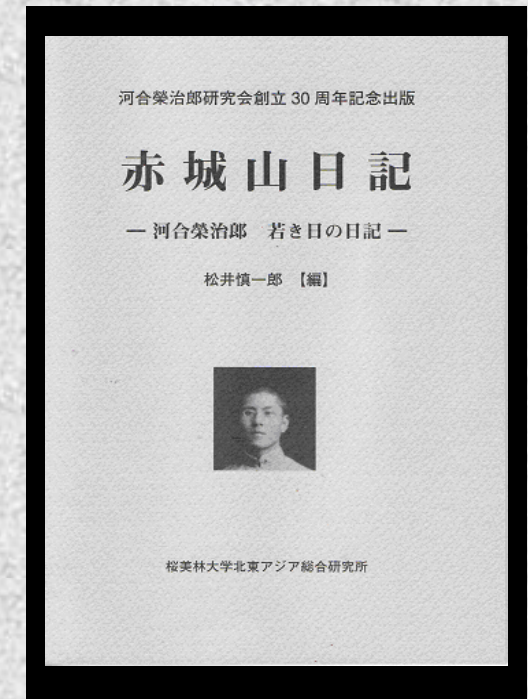
松井 慎一郎 【編】

ご注文はこちらへ

FAX 042-704-7030

ISBN978-4-904794-31-9 C0295 ¥762E

定価(本体762円+税)



1911年、夏。

一高時代の河合榮治郎は、赤城山でひと夏を過ごした。
赤城山の自然の美しさに魅了された。

「筆にも口にも出せない美、草原などの気がひし々身に迫ってくる・・・中略・・・僕は赤城の山の神、沼の上のとり子となつてしまった。」
— 河合榮治郎日記

赤城山が後年の河合にもたらしたものは何だったのか？

「赤城山日記」は、まさに河合の青春の縮図である。
友愛、絶交、思索、宗教、読書、若き日の河合の悩み。
すべてがこの赤城山日記にある。

約1ヵ月半という短い期間の赤城山日記に、
思想家「河合榮治郎」の形成過程が生々しく記されている。

桜美林大学北東アジア総合研究所

〒229-0006 神奈川県相模原市渕野辺 4-16-1PFC 内

注文カード

桜美林大学
北東アジア総合研究所
FAX042-704-7030 取扱品

貴店名(帳合)

発行社名

桜美林大学

〒229-0006

北東アジア総合研究所

神奈川県相模原市渕野辺 4-16-1PFC 内

赤城山日記

—河合榮次郎 若き日の日記—

ISBN978-4-904794-31-9 C0295 ¥762E

定価(本体762円+税)

定価
本体 762 円+税

冊

月 日

きりとり線